

平成30年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-7号)

農林総合研究センター
平成30年7月 9日調査

気象経過

< 平年対比 >

【平均気温】

- ・ 6月第6半旬は、金沢、輪島ともはかなり高い（平年差：金沢+5.0℃、輪島+3.8℃）
- ・ 7月第1半旬は、金沢、輪島ともはかなり高い（平年差：金沢+4.2℃、輪島+3.9℃）

【日照時間】

- ・ 6月第6半旬は、金沢は多く、輪島は並（平年比：金沢 121%、輪島 75%）
- ・ 7月第1半旬は、金沢、輪島ともはかなり多い（平年比：金沢 164%、輪島 148%）

【降水量】

- ・ 6月第6半旬は、金沢、輪島ともに並（平年比：金沢 110%、輪島 100%）
- ・ 7月第1半旬は、金沢は多く、輪島は少ない（平年比：金沢 168%、輪島 53%）

【1ヶ月予報】

7月5日発表の1か月予報（7月7日～8月6日）では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

生育概況等

【本田の生育】

1. 出穂期予想

ゆめみづほは、近年に比べ加賀地域で1日程度早く、能登地域で2～3日程度早い。
コシヒカリは、平年に比べ加賀地域は1～2日程度早く、能登地域は3～5日程度早い。
ひやくまん穀は、加賀地域で前年より2日程度遅く、能登地域は前年より6～7日程度早い。

【品種別地域別出穂期予想】

ゆめみづほ	加賀：7月18日～	7月21日	近年より1日程度早い
	能登：7月20日頃		近年より2～3日程度早い
能登ひかり	能登：7月26日～	7月27日	近年より2日程度遅い
コシヒカリ	加賀：7月26日～	7月31日	平年より2～3日程度早い
	能登：7月29日～	7月31日	平年より3～5日程度早い
ひやくまん穀	加賀：8月 5日～	8月 8日	前年より2日程度遅い
	能登：8月 9日頃		前年より6～7日程度早い

2. 草丈

ゆめみづほは近年比105%（加賀地域：105%、能登地域：105%）と近年よりやや長い。
コシヒカリは平年比102%（加賀地域：100%、能登地域104%）と平年並。
ひやくまん穀は前年比115%（加賀地域：113%、能登地域118%）と長い。

3. 茎数

ゆめみづほは、近年比102%（加賀地域：103%、能登地域：101%）と近年並。
コシヒカリは、平年比101%（加賀地域：99%、能登地域103%）と平年並。
ひやくまん穀は、前年比101%（加賀地域：86%、能登地域：122%）と加賀地域では概ね適正で、能登地域はやや多い傾向である。
最高分げつ期はいずれの品種も6月末となっている。

㎡当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	480本	（平年比 101%	前年比 89%）	26.3	本/株
	加賀	463本	（平年比 99%	前年比 88%）	25.6	本/株
	能登	505本	（平年比 103%	前年比 90%）	27.4	本/株
ゆめみづほ	県平均	533本	（平年比 102%	前年比 91%）	28.9	本/株
	加賀	534本	（平年比 103%	前年比 90%）	29.8	本/株
	能登	531本	（平年比 101%	前年比 92%）	27.0	本/株
能登ひかり	奥能登	536本	（平年比 110%	前年比 93%）	28.4	本/株
ひやくまん穀	県平均	478本	（平年比 —	前年比 101%）	27.0	本/株
	加賀	457本	（平年比 —	前年比 86%）	27.2	本/株
	能登	498本	（平年比 —	前年比 122%）	26.9	本/株

4. 葉色

コシヒカリの葉色は4. 4（葉色板値）で前回調査時に比べやや濃くなっており、平年及び前年に比べてもやや濃い。

ひやくまん穀は、コシヒカリよりもやや濃く、ゆめみづほ並の4. 7（葉色板値）となっている。

【病害虫の発生状況】

1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は過去20年の平均値より多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。
2. セジロウンカが6月29日に県内1カ所で初確認されている。（平年6月27日）

当面の対策

1. 分施体系ゆめみづほの穂肥：2回目の穂肥施用は葉耳間長±0cm（出穂10日前）とし、施肥基準量を守り、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに終える。
2. 早生品種は7月18日以降から順次出穂期となる。出穂期以降は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。
なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
3. 普通期コシヒカリは幼穂形成期となっている。中干しを終了し、早生品種同様、間断通水による飽水管理とする。
晩期コシヒカリ（5月20日以降田植え）及び加賀地域のひやくまん穀については、7月15日頃を目安に中干しを終了し、その後は間断通水による飽水管理を行う。
能登地域のひやくまん穀は7月20日頃を目安に中干しを終了し、その後は間断通水による飽水管理を行う。
4. 分施体系コシヒカリの穂肥：1回目の穂肥施用は、幼穂長15mm（出穂15～16日前）、葉色板値3. 5を確認して、遅れずに施用する。ただし、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより倒伏を防止する。
2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。
5. 分施体系ひやくまん穀の穂肥：1回目の穂肥施用は、幼穂長2mm（出穂20日前）、葉色板値4. 0を確認して、遅れずに施用する。ただし、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより籾数過剰を防止する。
2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。
6. いもち病については、常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行い、葉いもちの発生を認めたら周辺ほ場を含めて直ちに防除を実施する。また、葉いもち発生の有無に関わらず、出穂前後の穂いもち防除を徹底する。

7. 紋枯病については、常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では発生に注意し、防除を徹底する。粉剤での防除適期は、出穂前10～14日である。

8. 稲こうじ病の防除については、出穂前15～10日に実施すること。

9. 今後の畦畔や農道の除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は、本田防除の直前に行う。

※本田カメムシ防除の留意点

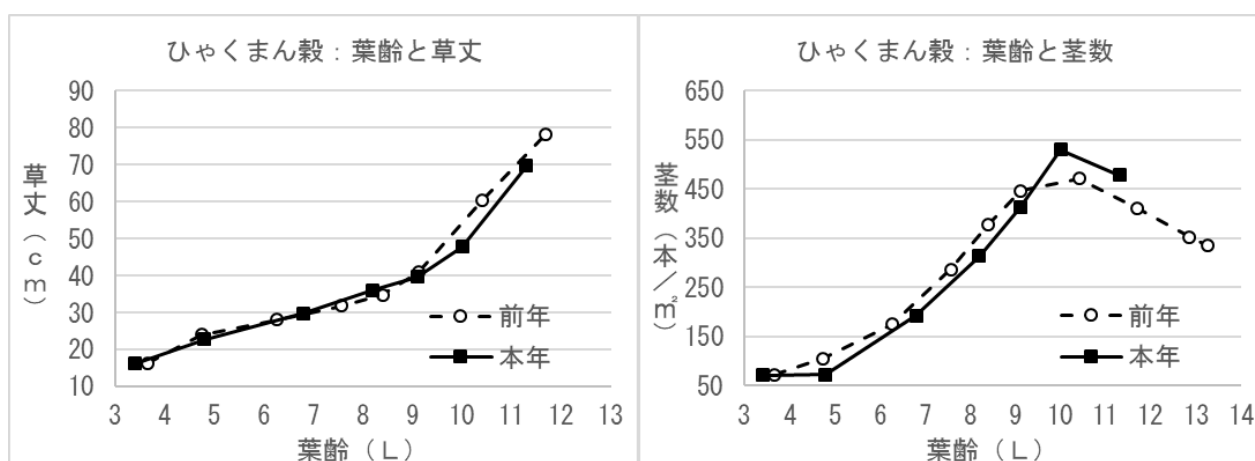
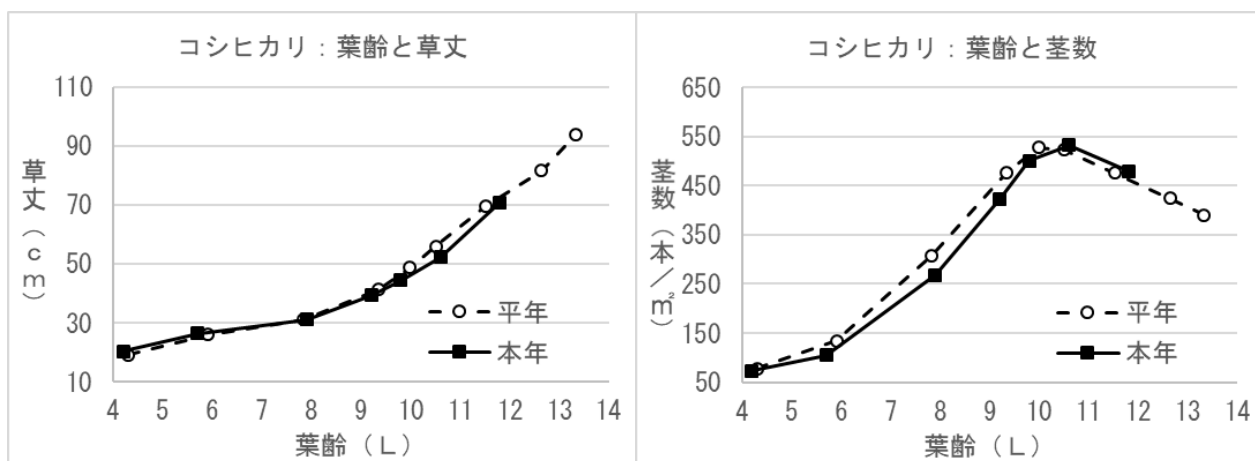
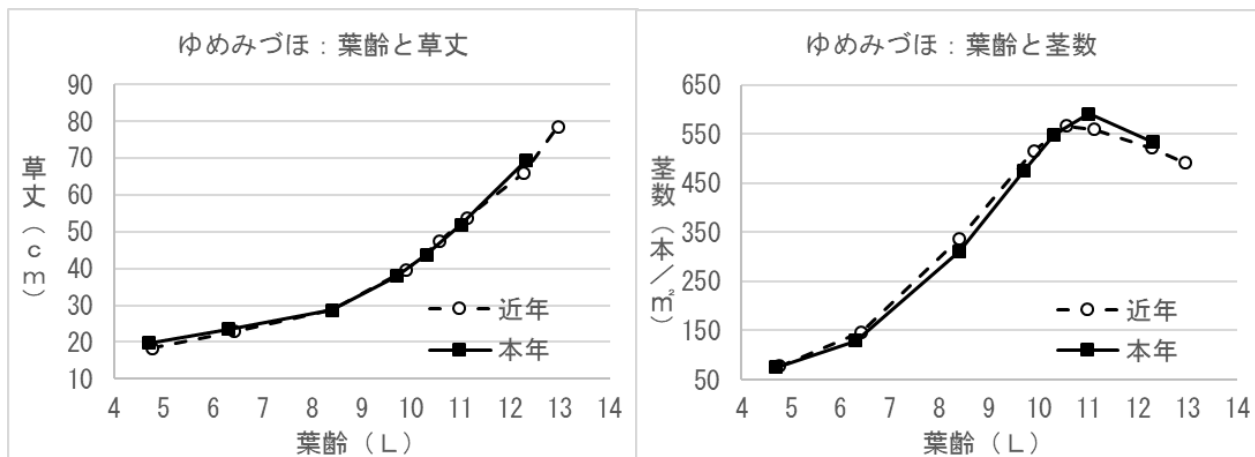
出穂期が7月：出穂後7～10日と14～17日の2回の防除を徹底する。

出穂期が8月：出穂後7～10日の防除を徹底する。

10. 今後も高温が続くことが予想されており、出穂期は今回の予想より早まることが懸念されています。出穂期に応じた防除計画や共乾施設の稼働計画等の再確認を行うこと。

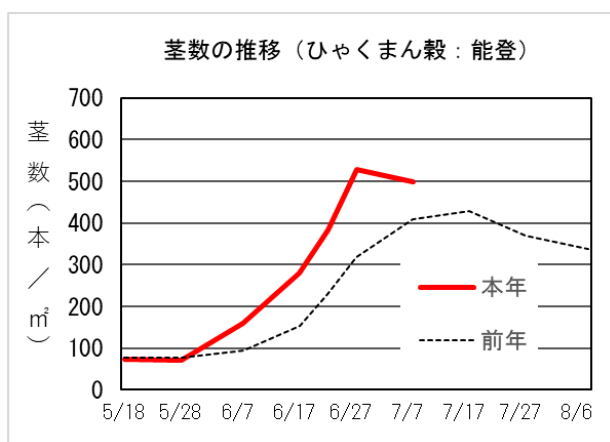
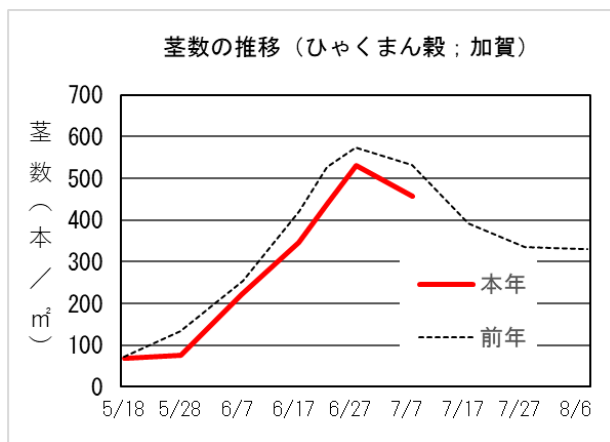
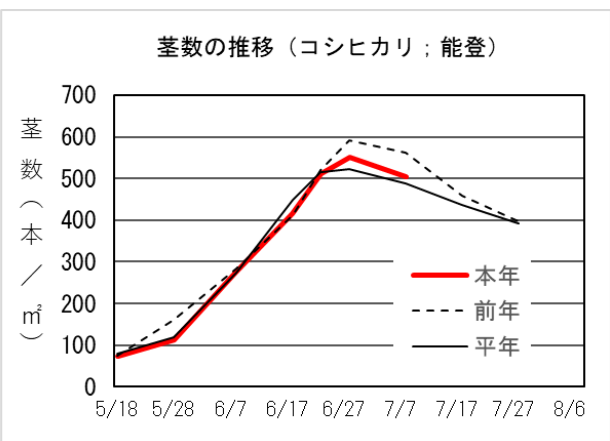
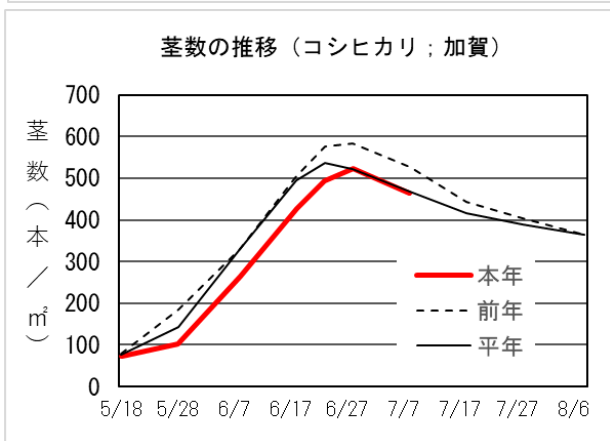
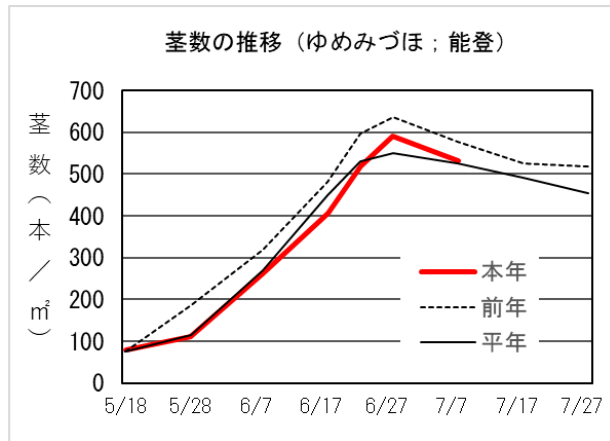
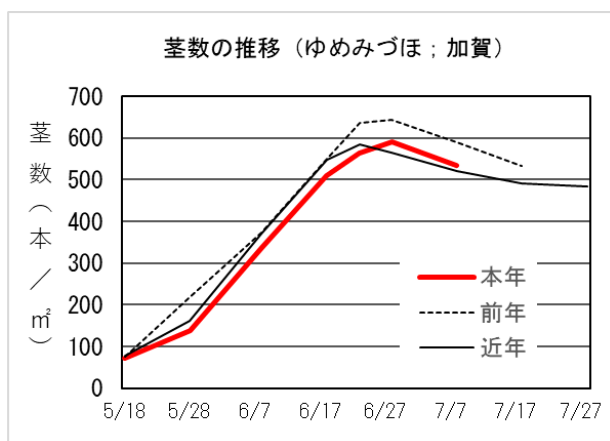
<参考：茎数の増加傾向>

・葉齢を基に茎数の増加を平年と比較すると、ゆめみづほ、コシヒカリ、ひやくまん穀ともに最高分けつ期の遅れからやや多くなっている。

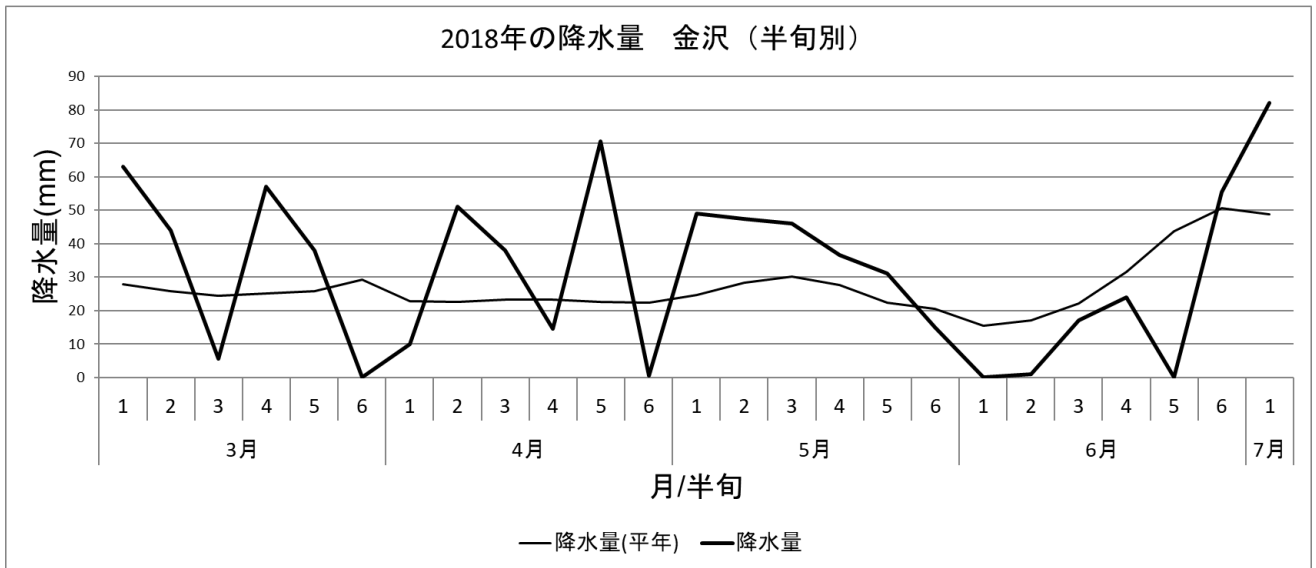
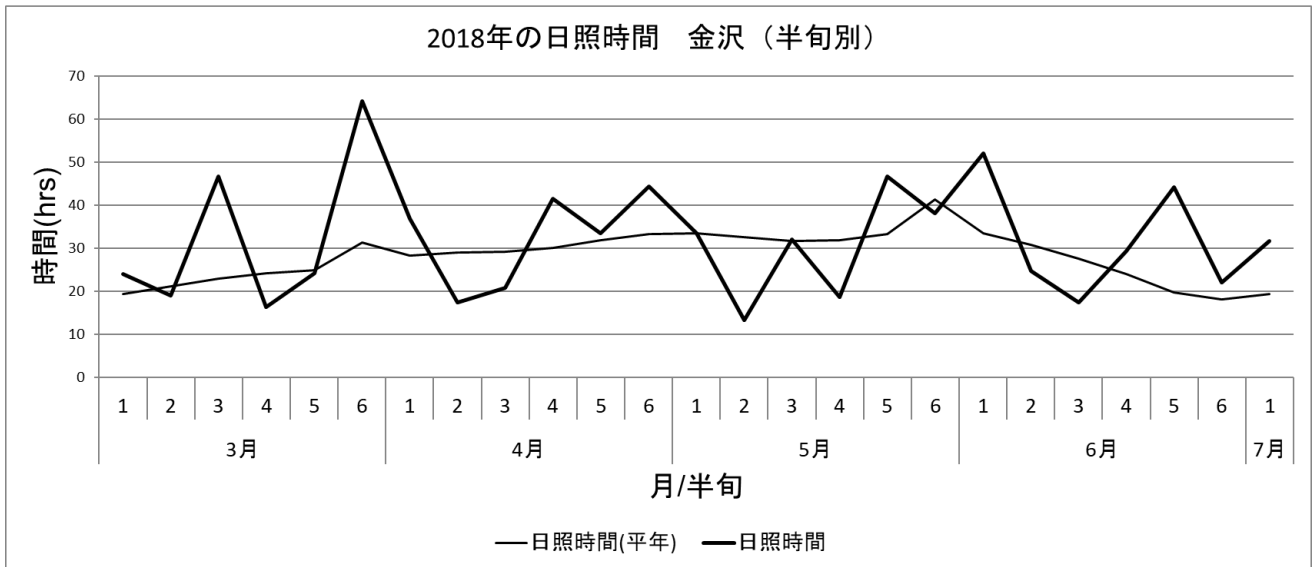
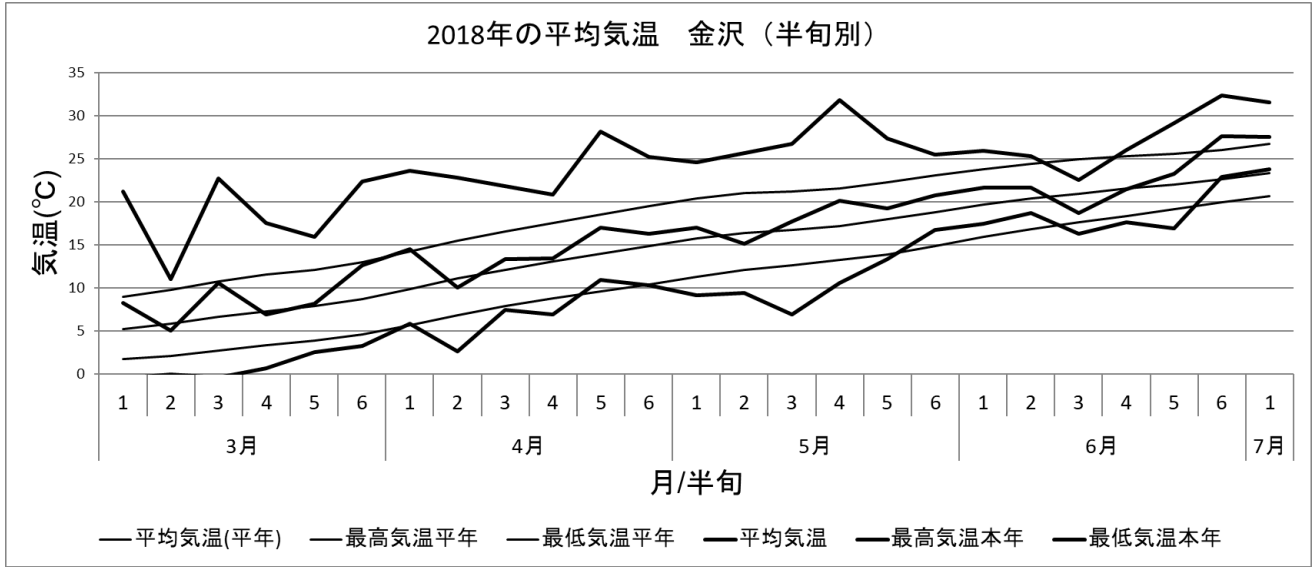


<参考：地域別茎数の推移>

- ゆめみづほの最高分げつ期は、加賀地域、能登地域ともに6月28日頃となり、近年並～3日程度遅くなった。現在の茎数は加賀地域は近年並で前年より少なく、能登地域は近年並で前年よりやや少ない。
- コシヒカリの最高分げつ期は、加賀地域、能登地域ともに6月28日頃となり、平年並～2日程度遅くなった。現在の茎数は平年並で前年より少ない。
- ひやくまん穀の最高分げつ期は、加賀地域、能登地域ともに6月28日頃となった。現在の茎数は加賀地域で概ね適正、能登地域でやや多い。



気象経過イメージ（金沢气象台）



気象経過イメージ（金沢気象台）

